

二十世紀を迎えて早くも四年目を迎えた。昨年度もわが義太夫協会は、予定された各事業を無事に済ませることが出来ました。これも正会員の皆さんの努力・精進によることは言うまでもありませんが、贊助会員・特別会員の方々のご支援があればこそで、あらためて厚くお礼を申し上げると共に、今後一層のお力添えを賜りたく宜しくお願ひする次第です。

昨年は、大過はなかったものの、例年開いている義太夫教室の受講者が、例年に比べて減少しました。これにはやむを得ない事情も

明けましておめでとうございます

社団法人義太夫協会会長

景山正隆



義太夫協会会報 第78号

平成16年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL・FAX (3541) 5471
<http://www.gidayu.or.jp>

監	理	最高顧問
"	"	名譽会長
事	事	副会長
佐 池 館 豊 豊 鶴 鶴 鶴	竹 竹 竹 竹 竹	常務理事
々 木 田 野 澤 澤 澤 澤 澤	本 本 本 本 本	会長
明 弘 善 幸 源 正 友 寛 越 越	土佐 恵 土佐 子 越 越	駒之助
郎 一 郎 二 二 平 治	路 津賀 寿 寿 若 孝	綾之助
	也	英 秀 雄 史
		史 隆 重 葉
		丸 太
		素 弥乃太夫
		正 駒之助
		朝 重 葉
		田 吉
		邊 川
		景 山
		田 邊

賀 年 始 め



○謹賀新年、会報編集、締切厳守、部内円満。

葵太夫

○廻り道をしたり、立ち止まつたり、それで
も何とか歩き続けています。本年もどうぞ
よろしくお願ひ致します。

朝重

○おめでとうござります。協会が社団法人に
なって35年。保存会が設立されて25年。益
益発展し、40年、50年が迎えられる様頑張
りましょ。

綾太夫

○申年新年おめでとうございます。今年も皆
様に助けられながら忙しく暮らす事でしょ
う。初心を忘れずがんばります。綾之助

○新年おめでとうございます。今年こそ三味
線弾きの体型になれる様減量します。本年
もどうぞ宜しくお願ひ致します。勝二郎

○早いもので父が還暦を迎えます。親孝行の
年にしたいと思います。

賀 寛也
○昨年は体調をくずしたおかげで、健康に気
を遣うようになりました。

○昨秋から減量のため、出来るだけ歩くよう
にしています。本年もどうぞ宜しくお願ひ
申し上げます。

喜惠博

○二〇〇四年初春お目出たう御座います。本
年も第一に各位様御体調に心がけ斯道精進
をお祈り申し上げます。

清太夫

○明けましておめでとうございます。劇場の
階段でコケてから、家で養生しています。

最近

○大それたがりでコケてから、家で養生して
います。

源平

○大それたがりでコケてから、家で養生して
います。

三寿々

○大それたがりでコケてから、家で養生して
います。

幸治

○今年はトヨタ杯でバイエルンの応援をしま
す！絶対です！

越京

○『エッマジイ』『かわいい!!』貧しい日
本語に腹をたてる頻度が年々はげしくなっ
ています。だってほらア私って変な人じや
ないじやないですかアア。アレー、今年も

一處懸命致します。宜しくお願ひ申し上げ
ます。

越道

○あけましておめでとうございます。「何を
受けとるか」より「何を与えるか」を
念頭に置いていきたいです。

慎治

○おめでとうございます。今年は何も考へな
いで、しかも感じて分る様に生きたいと願
って居ります。

三寿々

○明けましておめでとうござる。正月には松
をかざる。隣のご隠居がお年玉をくださる。
いただいたらさっさとさる。今年もよろし
くでござる。

津賀榮

○私の干支の解説には、「動きながら世を送
る」とあります。しかし、今年はゆつたり
すごしたく。

津賀寿

○昨年一月の初舞台からはや一年経ちました。
がんばるのみです。今年もどうぞよろしく
お願ひいたします。

駒 清

○今年も健康新年（という事は健康じゃない
という事か？）で、駒登久師匠を見習って
頑張りたいと存じます。すっかり健康おた
くの私です。

駒 治

○新年のすがくしい空気を深呼吸して今年
もがんばります。

駒 輝

○明けましておめでとうございます。今年も
一日一日を過ごして参りたいと存じ
ます。宜しくお願ひ申し上げます。

駒 輝

○明けましておめでとうございます。今年も
一日一日を大切に過ごして参りたいと存じ
ます。宜しくお願ひ申し上げます。

駒 輝

○さるほどにいし。いつもより多く廻つて
おります。といふわけで申づくし、行つて
みよう。

（津賀榮さんに続く）

三寿々

○あけましておめでとうございます。「何を
受けとるか」より「何を与えるか」を
念頭に置いていきたいです。

駒 輝

○おめでとうございます。今年は何も考へな
いで、しかも感じて分る様に生きたいと願
って居ります。

駒 輝

○明けましておめでとうござる。正月には松
をかざる。隣のご隠居がお年玉をくださる。
いただいたらさっさとさる。今年もよろし
くでござる。

駒 輝

○私の干支の解説には、「動きながら世を送
る」とあります。しかし、今年はゆつたり
すごしたく。

駒 輝

○ひとつひとつの舞台を精一杯つとめさせていただきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

津賀花

○初めの一歩を踏み出したばかりです。龜の歩みではありますが、一步一歩着実に思っています。よろしくお願ひいたします。

津賀佑

○新年お目出度うございます。今年もよろしくお願ひ致します。お目出度うと云ふ毎に頭の毛は薄くなり増える物は皺ばかり。淋しい次第ですが、好きで始めた仕事ですから、今年も頑張って行きたいと思っております。

時若

○月日のたつのは早いものと実感させられる様になりました。健康に気をつけて、今年も頑張りたいと思います。

土佐恵

○新年おめでとうございます。暗いニュースの多い世の中。先の明るい義太夫協会にと願って居ります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

土佐子

○明けましておめでとうございます。おとなしい羊の年から活発な猿の年となり「見ざる聞かざる言わざる」は先人にもかせよく聞いて見て勉強してほしいものです。どうか今年も宜敷くね。

友路

○あけましておめでとうございます。寿治郎も御指導、御鞭撻の程、よろしく願い上げます。

松也

○謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も御指導、御鞭撻の程、よろしく願い上げます。

幹太夫

○新年おめでとうございます。今年も恙無く日々送れますように。

道太夫

○年々仕事がふえるような気がします。これは事業が盛んになっている証拠? 今年もよろしく。

素丸

○今年も「音に心を! 心に愛を!」をモットーに頑張ります。

紋榮

○マイペースですすんでまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

弥栄

○あけましておめでとうございます。今年もひたすらに歩み続けてまいりたいと思っています。どうぞよろしく。

弥吉

○頌春。昨年は嫌なニュースが多くた。今年は明るく健全なよい年にしたい。女流の皆さん、女流義太夫の伝統をふまえ、更なる躍進をめざして下さい。

弥乃太夫

○皆様にとりまして、昨年よりまさる目出たき一年となります様、心からお祈り申し上げます。本年も宜しくお願ひ致します。

佳之助

○今年はサル年、ということは、来年はトリ年、えつ、また年オッナ!

柴田良子

ひと口干支メモ

今年は、風水によると21世紀が始まつて最初の「勝負の年」だそうです。夢や幸せをつかむ為に、躊躇せず勝負に出る事が大切だとか。吉方は東と西、ラッキーカラーは、ミルク色・黄・赤。住まいやファッショ等あらゆる物を取り入れて、幸せを手にいたしましょ。皆様のご多幸をお祈りしています。

友路

佳之助

竹本谷太夫

正会員 TOPICS

歌舞伎ロシア公演レポート

竹本谷太夫

南こうせつがこの夏ロシア、ハバロフスクでコンサートを開いた時の模様をテレビ『笑つていいとも』で話していました。(昨年は『ロシアにおける日本文化フェスティバル2003』と題して、日本の文化を紹介する催しがロシア各地で開かれました。

六月には、中村雁治郎丈を中心とする歌舞伎の一座もロシアのモスクワ、サンクトペテルブルグの二都市で公演を致しました。

演目は『曾根嶺心中』。竹本連中として、谷太夫、六太夫、泰二郎、公彦の四名が参加しました。

直前にはチエチエン派テロリストによる劇場占拠事件もあり、『催涙弾は勘弁して欲しいな』などと内心不安な旅立ちではありました。

モスクワ、ゴーリキ記念劇場の裏屋口の警戒は厳重で、毎日顔写真付きの出演者パスの提示を求められました。

ところが公演初日にはそのパスをホテルに忘れてしまい、出演時間は迫つてくるのに私一人だけ劇場に入れないとありました。



中村雁治郎丈と竹本連中のスナップ

=左から泰二郎、雁治郎、谷太夫、六太夫、公彦の各氏=

通訳さんに来てもらい、事情を説明してもらっても「バスのない人は楽屋口から絶対に入ることはできない」と頑固一徹。表へ回って主催者の立ち会いの下、客入れの始まる中、正面ロビーからようやく楽屋入りを果たしました。頑固な警備員の顔は未だに忘れることが出来ません。

ホテルでも同様に入口でバスの提示を求められましたが、「職務に忠実な」警備員たち

おかげで安全に公演を開くことができました。

モスクワ公演を終えてサンクトペテルブルグに空路移動の際に事件は起きました。

空港に降り立ち、荷物を受け取ったところ、六太夫君のスーツケースがこわれているのです。当初は手荒く扱われてショックで破損したのかとも思われ、笑い話になりかかってました。しかし、一座がホテルに着いて荷物を調べると、彼を含め、壊されたスーツケースの中から現金を抜かれている人が続出。

全体で十名程が総額百万円もの盗難にあり、竹本でも三名が被害にありました。(ケースは)バルの様なものでこじあけられたらしく、鍵も壊され、二度と使えない状態。皆泣き出しそうな顔でした。

時間に余裕をもってバスで空港に向かったのですが、領事館の方や皆様のおかげで、新しいスイッケース代金は保険から支払って頂けること。一同デパートへスーツケース買出しツアーワーを行ったことでした。

二週間程の短かい行程のロシア公演でしたが、全く次に何が起こるか分からぬ緊張した。しかし忘れられない公演旅行となりまし

特集 II その一
協会のお宝
義太夫協会事務所には、実演家に関するいろいろな資料も収蔵されています。その中から、「ちょっとこれは」と誇れるものをご紹介していこうと思います。第一回は、文楽大夫としてあまりにも有名な、豊竹山城少掾師が、古鞠大夫時代に舞台で使っていた床本です。



達筆な扉書き



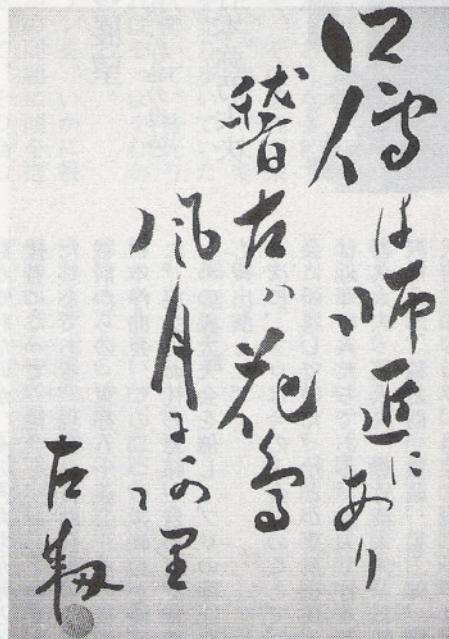
義太夫本には、舞台で使う手書きの床本、お稽古のときに使う木版の稽古本、一作品の全段が細かい字で刷られている丸本があります。このうち床本は、名人の使われたものなどは由緒を記して、師匠から弟子に相伝され、取り扱いもたいせつにされます。

今回ご紹介する床本は、杉山其日庵から二世豊竹古韻大夫に授与され、古韻大夫がひいき客の河野国声氏に進呈されたものを国声氏が生前に協会に寄贈なされたものです。

杉山其日庵（茂丸）は、明治期の摂津大掾や三世大隅大夫といった名人に義太夫を教わり、義太夫節の本質を考えぬき、「淨瑠璃素人講釈」という名著を世に出した方です。その考えは古韻大夫にたいへんな影響をおよぼし、八世竹本綱太夫、また武智鉄一といった人々に受け継がれました。

協会には二冊所蔵されています。「伊賀越」は義経千本桜「酢屋」、もう一冊は『伊賀越道中双六岡崎』です。いずれも其日庵特製の布表紙の装丁です。表紙をめくりますと、古韻大夫の見事な筆で、段書きされていて、由緒も付記されております。

「酢屋」は見返しに「此本杉山茂丸先生蔵



口伝は師匠にあり

書／古韻拌領／此度 贈 河野国声先生江／昭和十九年五月 古韻印」。扉に「義経千本桜／寿しや／古韻大夫 二世古韻大夫の印」とあります。

さらにめくりますと、其日庵の朱筆で「昭和八年七月一日東京劇場に於て始めて此段を聞き心の余り此本を贈る／芸道の外聾負にせぬ眼病の其日庵 其日庵印／古韻太夫殿」とございます。辛らつな批評で聞こえていた天下の大通に、感心のあまりほうびを与えたわけですから、たいへんなことです。この本には其日庵の心覚えの書き込みがございまして、奥の陣羽織のくだりには余白に「陣羽織は大隅は四分間／越路は六分半／古韻は三分半夫れで分る」と書かれています。よく「だれるから」とカットされることもある。

さらにめくりますと、「伊賀越／八冊目の切／古韻大夫 印」、面白いなと思いますのは、この本も「酢屋」も古韻「太」夫と署名されていることです。昭和二十年代に山城少掾の発案で「太夫」の表記が「大夫」に変更され、今日に至っていますが、このころから自主的に「大夫」を用いていらしたことがうかがわれます。

昭和二十年三月の大阪空襲で古韻大夫は堀江の自宅を焼かれていました。したがいまして、古韻大夫の床本のほとんどはその折に焼失しておりますから、たまたま残った貴重な数冊の一部と申せましょう。

書／古韻拌領／此度 贈 河野国声先生江／昭和十九年五月 古韻印」。扉に「義経千本桜／寿しや／古韻大夫 二世古韻大夫の印」とあります。

さらにめくりますと、其日庵の朱筆で「昭和八年七月一日東京劇場に於て始めて此段を聞き心の余り此本を贈る／芸道の外聾負にせぬ眼病の其日庵 其日庵印／古韻太夫殿」とございます。辛らつな批評で聞こえていた天下の大通に、感心のあまりほうびを与えたわけですから、たいへんなことです。この本には其日庵の心覚えの書き込みがございまして、奥の陣羽織のくだりには余白に「陣羽織は大隅は四分間／越路は六分半／古韻は三分半夫れで分る」と書かれています。よく「だれるから」とカットされることもある。

さらにめくりますと、「伊賀越／八冊目の切／古韻大夫 印」、面白いなと思いますのは、この本も「酢屋」も古韻「太」夫と署名されていることです。昭和二十年代に山城少掾の発案で「太夫」の表記が「大夫」に変更され、今日に至っていますが、このころから自主的に「大夫」を用いていらしたことがうかがわれます。

昭和二十年三月の大阪空襲で古韻大夫は堀江の自宅を焼かれていました。したがいまして、古韻大夫の床本のほとんどはその折に焼失しておりますから、たまたま残った貴重な数冊の一部と申せましょう。

義太夫協会の 特色と今後の展望

(東京の義太夫と埋もれた作品の復活)

竹本弥乃太夫



数が知れないが、その人たちが殆ど協会の後援者になつて、協会をバックアップしてくれたことである。現在の賛助会員のことである。戦前からの、東都五十義会、その後に出来た日本淨曲会、この二つの素義会が隆盛を極めた。協会はお礼の意味も含めて、賛助会員のための義太夫会を催し、プロの師匠たちが皆応援出演した。

次に、プロは今の正会員のことと、大勢協

会に所属していた。殆どが東京在住、あるいは近郊の人たちである。太夫で竹本都太夫、喜久太夫、路太夫、豊竹湊太夫、三味線で豊沢松太郎、猿之助、猿藏、猿三郎、猿平、野沢吉二郎、吉平、男性に混じっては、女流の太夫で竹本素女、綾之助、土佐広、越道、越駒、三味線では豊沢猿幸、鶴沢三生、それに歌舞伎の、竹本扇太夫、近衛太夫、秀太夫、三味線の鶴沢絃二郎、伊三郎、豊沢猿若なども加わり、また文楽からも、鶴沢綱造、重造、竹本綱太夫、住太夫、豊竹若太夫といった錚錚たる師匠たちも加盟していた。これら先人たちは東京で、斯界の発展に多大なる功績を残している。因みに、大阪の超願寺とは別個に、両回国向院境内の、竹本義太夫の墓は、東京在住の多くの師匠方の手で建立されたものである。だから協会では、祖先祭として、毎年秋に欠かすことなく義太夫さんのご法事を執り行つてゐる。

先頃野沢吉平師が他界された。東京の義太夫界では最後の三味線弾きさんで、私とも長いお付き合いであった。心より冥福を祈る。

さて、想えば東京の義太夫界は、明治から現在の社団法人義太夫協会へと発展し命脈をつないできた。昔一時期は人形座もあったと聞いていたが、文楽と違つて、殆ど一貫して興行形態を持たない義太夫協会であるが、その特色としては、素義とよばれるアマチュアの義太夫人、今と違つてどのくらいの人数か

会長として、協会の公演会には、大勢いた男性群が役を振り当てられて必ず発表するなど、東京の義太夫としての普及活動を続け、現在の協会の基盤を固めた。

戦争で、東京が焦土と化し、徐々に復興の兆しが見え始めた昭和二十三年に、義太夫教室が生まれ、私は一期生となつた。そのとき以来、私が深く教えを受け、感銘した野沢吉二郎師の、義太夫節曲節の分解、語り方、人物や情景描写の繊細な根本理念などは、現在、毎年開講される義太夫教室で、(音調基本講座)として、昭和四十五年度より、及ばずながら私が継承し講義している。

さて、今現在の義太夫協会は、女流公演が主なので、女流義太夫協会と思われている。私が協会会員になつてからでも、当然のことながら年々多くの師匠たちが逝去され、今は女流で占められている。文楽、竹本のぞい協会では、男性はプロとして存在しないとも言えるし、経済的な面から見ても、男女の差はばかり言い切れないが、非常に残念である。协会では、男性はプロとして存在しないとも厳しいとも言える。

義太夫教室の講習課程を終えて、プロ志願の女流が増え、その目覚しい発展は大変結構なことであるが、最近は、一にも二にも文楽との感が強い、何か個性を失われそうな気がしてならない。われわれとても義太夫のお手本は文楽としたいが、否、義太夫には家元制がないことも或る意味では悪いほうへ傾く。昔は個性豊かな、語りも三味線も多くて聴

衆を魅了させた。改めて考えるに女流はあくまで独自の伝統を守るべきで、文楽のまねはできない。男の太夫、三味線も女の真似はできないのである。また歌舞伎義太夫の竹本でも、文楽とは根本的に違うジャンルで、演技するのが人形でなく、生身の俳優であるから、どちらも全く相容れないものである。舞踊曲でも同じことが言える、如何に間拍子よく、曲節本位に相手を踊らせるかが鍵といえる。文楽の本行から派生して、さまざまなかたちに変わっているそれぞれの芸能は、独自の難しい修行がある。決して文楽を貶しているわけではないが、たとえて言えば、安米節だって、きっと何年たつたら泥鰌が掬えるのか、と言われているかもしれないし、吹雪の中で弾くジョンガラでも、人をして、感動させる域に到達させるには、容易なことではないだろう、みな同じ日本の民俗芸能ではないか、中でも義太夫節は、長い伝統を踏まえている古典芸能ということで、国からの保護を受けていることで、何か特別な印象を与えている。当たり前のことだが、どんな芸能であっても、ファンあってこそ、その芸能が栄える、忘れてはならないことだ。昔は、文樂興行のたびに一人一人切符を売り歩いていた。義太夫のいわゆる旦那衆が大勢いて、皆売り上げに協力した。芸が悪ければそっぽをむかれる、厳しい現実が常に付きまとう。義太夫協会では義太夫ファンを、いかに根本的活動によって作り出すかの問題に頭を抱えている。つねに全力投球をして、その為の

義太夫教室は年々止むことなく、今年で56期の講習を終えた。最近はワークショップや、対外的に地芝居、歌舞伎や人形のための義太夫演奏の協力や、各学校等への講習要請にも積極的に参加している。しかしながら、それに対応できる人材が不足することも事実である。

三百二十年に及ぶ義太夫節を、如何に後世にしっかりと伝えてゆくかは、我々のまた責務でもある。わたくしは、東京の土地で生まれ育ち、東京のさまざまな師匠に教えを受け身につけた義太夫である。過去に、いい作品がどれだけあつただろうか、と考えてみると、作品の一つ一つは師匠方が他界されるごとに、もう戻ってこない。せめて教えをうけた作品などは、もう一度見直して整理したいと思っている。

今活躍をしている女流師匠方は、若手のプロたちに、自分の持っている作品を積極的に教えるべきである。義太夫節保存会が出来、助成金のおかげで、研修が自分の手を煩わすことなく行われたら、前述の個性が失われてしまう。

最後に、資料が不完全であるが、ちょっと浮かんだ、豊沢松太郎師関係の作品を列記してみた。

力祇園曙（道行春の富士他）、忠臣一
めぐろ山比翼塚（幡隨院長兵衛）、忠臣一
枝（景事日光山）、日蓮上人御法海（佐渡ヶ
島三昧堂）、三都三自慢、丹波与作待夜小室
節（由留木殿（道中双六）、近松十二段のうち（長生殿）、傾城倭莊子（郡司兵衛内（蝶
の道行）、八犬伝（里見義実最期）、小野小
町草紙洗、三勝半七千日寺道行、心中刃水朔
日、二人静胎内探、等々。終りにあたり、各
師匠方の敬称を略していただきましたことを

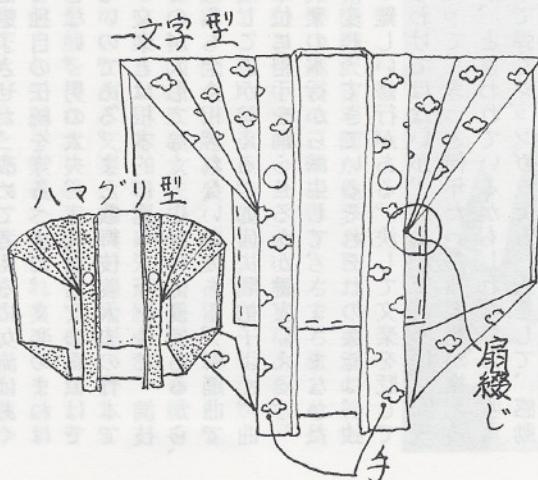
閑話休題

もう一つ私が言いたいのは、今の人たちにはわからないが、前述の社団法人義太夫協会の特色である。素人の旦那衆も、本行の大勢の師匠方、男性に混じって女性も、また文樂の人もたくさんいて、お互いに義太夫が好き

で協会を守り立ててくれた、そんな特色有る協会が、法人化した昭和四十五年ごろから急速にダウンしてしまったのである。それらを改めて認識してもらいたいと痛切に感じている。

さらに関連しての要望だが、竹本から義太夫協会への加入をもっと強化し、男性正会員を増やすことが課題である。竹本の若手会員にも、いい勉強の場を与え、経済的に援助できることで、竹本協会に対する、積極的に検討をしてもらえば、と期待している。男性が増えれば、さまざまの形で、東京の埋もれた過去の幾多の作品も、復活ができると期待したい。

肩衣の名称(葵太夫氏より)



お役立ち情報

肩衣を作つてみました!

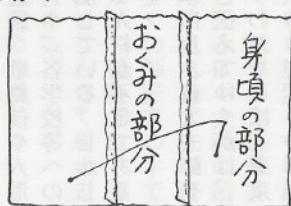
古い小紋の着物を使って、肩衣作りに挑戦してみました。

☆下準備……着物をほどいて洗う。糊付けして干す。アイロンをかける。

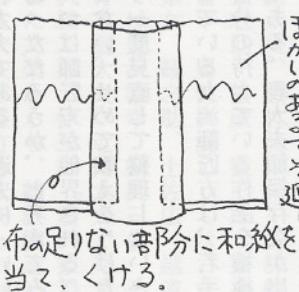
☆寸法……既製の肩衣から採寸。
☆その他の材料……和紙(障子紙・西の内・厚手のもの)など。梱包用の紙。竹(幅0・6センチ位)。ボンド。フェキノリ。

1. 背部分

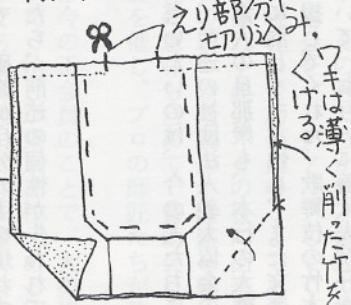
①ほどいた着物をそのまま生かして縫い合わせる。



②柄が透けるので、そぞろ廻しを使い、袷せにした。

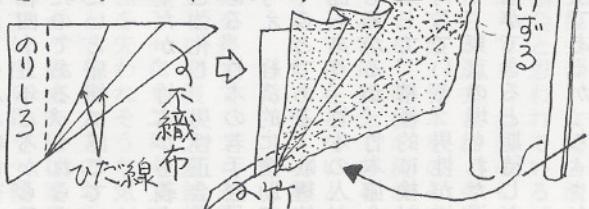


③背中の当たる部分は薄紙を使うのが梱包用の紙を縫いつけた。

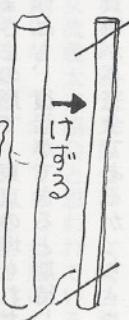


2. 前部分

①三角の紙にひだの線を書き、やや大きめの布を当て、線とそらし合わせながら折っていく。(アイロンできっちりと押さええる。)

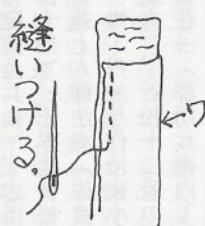


②薄く削った竹を貼る。

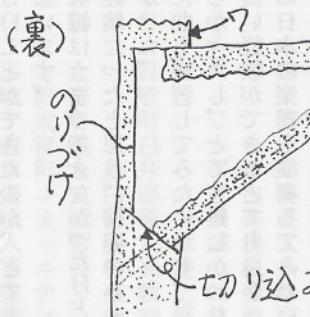


3. 手

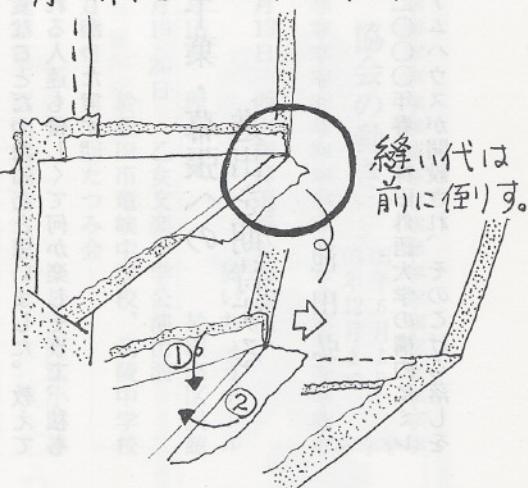
厚手の紙を2枚貼り合わせ芯にする。(見える部分をウにする。)



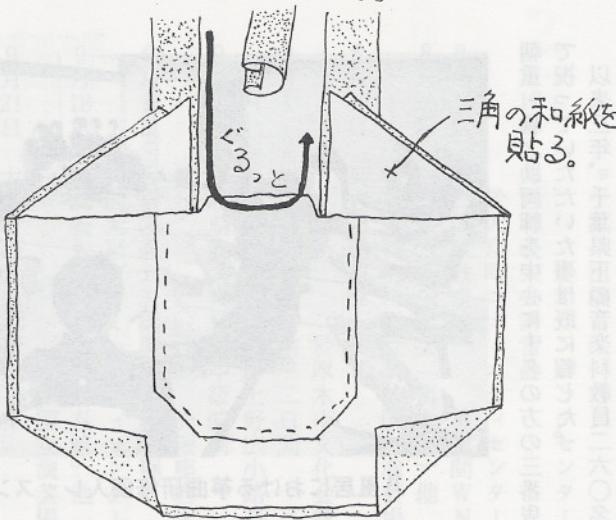
4. 手に扇をつける。



5. 背と前を合わせてくくる。



6. えりをつける。



本当に形になるだらうかと、半信半疑でやり始めましたが、どうにか2枚の肩衣が出来上がりました。（舞台でも使ってみました。）昔のものは、折り紙細工のようによく出来ています。仕上ったものの、コンをつめ過ぎて肩は凝るし、頭痛もしてくる。やはり、餅は餅屋で稽古に専念しよう……というのが、今回の教訓です。

（駒輝）

何か変わったことができるらしい、との予備知識があつてか、今回は進んでこのコースを選んで来てくれた生徒さんも多かったようです。前回はごく一部の人にしてしか機会のなかった三味線の実技と肩衣・袴を着ける時間も大幅に増やし、特に三味線はほぼ全員に弾いてもらうことができました。衣装は全部で5組用意し、交替で脱いだり着たり。普段はまづ目にすることのないものだけに、着る手順なども興味深かったようです。衣装を着け、三味線を構えての写真撮影大会には「かっこええでー」「こっち向いて!!」等声援も飛び交い、みんな大喜びでした。終了後のアンケートでは貴重な体験ができるよかったです。日本の音楽に触れたい、との声が多数寄せられました。今年もぜひどうぞー。

「修学旅行で義太夫を」再び!!

会報第76号でお伝え致しました奈良県大和高田市片塙中学校の皆さんのが昨年10月14日、一昨年に引き続き義太夫を体験しに来て下さいました。修学旅行第1日目の見学コースのひとつとして旅行会社の提案で始まつたこの企画、邦楽に対するなじみの薄さも手伝って第1回の参加時にはあまり乗りのしないまま訪れた生徒さんも多かったようですが、見学に終始した他コースと違い、自ら未知のものを体験できただことが非常に新鮮だったようで旅行後の評判もよく、第2回実施の運びとなりました。

何か変わったことができるらしい、との予

備知識があつてか、今回は進んでこのコースを選んで来てくれた生徒さんも多かったようです。前回はごく一部の人にしてしか機会のなかった三味線の実技と肩衣・袴を着ける時間も大幅に増やし、特に三味線はほぼ全員に弾いてもらうことができました。衣装は全部で5組用意し、交替で脱いだり着たり。普段はまづ目にすることのないものだけに、着る手順なども興味深かったようです。衣装を着け、三味線を構えての写真撮影大会には「かっこええでー」「こっち向いて!!」等声援も飛び交い、みんな大喜びでした。終了後のアンケートでは貴重な体験ができるよかったです。日本の音楽に触れたい、との声が多数寄せられました。今年もぜひどうぞー。

—片塩中の皆さんのが声—

○色々経験できてほんまに面白かったです。全部前に出てできたのが良かったです。すごく珍しいことができたのが、とても貴重だったと思います。

○三味線はうまくできなかつたけど、めっちゃいい経験だったと思う。袴姿のみんなはかっこよかったです。

○また曲も練習してみたいかも。

○楽しかつたし、とても難しかつたけど、今日は良い経験ができたとても良かったです。

○他の日本の楽器も演奏してみたいと思いました。もちろん、三味線をもう一度やりたいとか…。

○バチを持つのがとても痛かった。

○前で三味線を弾くのが恥ずかしかつた。

○初めて三味線を触れて楽しかつた。

○今日、自分でも三味線を弾いてみてとても大変なことだったんだと思いました。教えてくれる人達も優しくて何か楽しそうで、私も楽しかつたです。



八風居における箏曲研修個人レッスン

千葉・幕張への進出を期待する

池田 弘一

朝重・駒之助両師を中心に十名の方の三番叟で祝っていた事は既に報じた。
以来三年、千葉県下の音楽科教員二六〇名を迎えての和楽器研修会や八風居（和室）での伝統芸能伝承の夕べ（毎月十一日）に多くの会員方が出演くださって学生や近隣住民、教育関係者に感動と喜びを与えてきた。かなりの定連もできてきたのである。

さて、新しい年を迎えるに当つて願うのは、ホール（二五〇席）を生かしての本格的な演奏会が定期的に出来ないかということである。春秋二回の義太夫節演奏会は是非とも開催したい。それが五年も継続できれば千葉周辺にニアムハウスが開設され、そのこけら落しを

ホール舞台での鳴物研修
(指導・望月太左衛社中)

新しいファン群が確実に得られよう。それは皆さんに努力を結集しての上野広小路亭の成果からも言えることである。
ここで障害として考えられるのは都心から離れた地であることと集客をどうするかということである。芸の練磨と共に聞き手を集め、聞く耳を育てる努力は、今後誰もが避けてはいけない努力だと強く思う。やりたい事をやりたいように、やりたい時にだけやる。それが出来るような世の中ではない。幕張の地に義太夫節演奏の城をもう一つ築く気になつてもらいたい。本気で便宜を提供し、協力することを約束する。

(2004.1.1)

義太夫協会会報 第78号

6月13日	西川柳峰追善公演出演	於いちょうホール	8月1・2日 「ぎだゆう座」二日間	於白井農村交流センター	7月27～29日 関宮町義太夫ワーキング・アップ	於賓輪文化センター、飯田市公民館	9月25日 義太夫節保存会総会
6月16日	理事会	於銀座区民館	8月3日 真壁町白井座義太夫教室	於上野広小路亭	7月28日 義太夫教室第56期閉講式	於関宮町公民館	9月25日 資料部作業
6月19・20日	乙女文楽中学公演出演	於飯田市竜崎中学校、高陵中学校	8月15日 日本の音フェスティバル・音のシヨケース出演	於白井農村交流センター	7月28日 「ぎだゆう座」二日間	於協会資料室	9月27日 祖先祭
6月20日	第一回たつみ会	於上野広小路亭	8月30日 第六回巴の会	於オリンピックセンター	7月29日 「ぎだゆう座」二日間	於両国回向院	9月28日 真壁町白井座義太夫教室
6月23日	芸団協総会	於オペラシティ会議室	8月17日 大宮町義太夫講習会	於紀尾井ホール	10月1・2日 「ぎだゆう座」二日間	於白井農村交流センター	9月25日 義太夫節保存会総会
6月24日	泉直子見習い期間終了審査	於国立演芸場第二研修室	8月23日 一日体験教室	於空間WN	10月6日 大宮町義太夫講習会(三味線)	於大宮町コミニティセンター	9月25日 於ホテルベルクラシック
6月24日	女流義太夫演奏会「壺坂」他	於國立演芸場	8月26日 女流義太夫演奏会「橋弁慶」他	於白井農村交流センター	10月7日 日本芸術文化振興基金説明会	於賓輪文化センター	9月25日 於協会資料室
6月28日	総会	於築地社会教育会館	8月30日 第六回巴の会	於白井農村交流センター	10月12日 第七回駒之助の会	於東京新橋組合	9月25日 於両国回向院
6月29日	真壁町白井座義太夫教室	於白井農村交流センター	9月1・2日 「じょぎ」公演	於厚木市文化会館	10月14日 片塙中学校ワーキング・アップ	於大宮町コミニティセンター	9月25日 義太夫節保存会総会
7月1・2日	「じょぎ」公演	於上野広小路亭	9月1・2日 「じょぎ」公演	於上野広小路亭	10月19日 大宮町義太夫講習会	於大宮町コミニティセンター	9月25日 義太夫節保存会総会
7月6日	真壁町白井座義太夫教室	於白井農村交流センター	9月4日 第56期義太夫教室中級開講	於銀座吉水	10月21日 女流義太夫演奏会「義経千本桜」	於塩田公民館グラウンド	9月25日 義太夫節保存会総会
7月13日	大宮町義太夫講習会	於大宮町コミニティセンター	9月8日 大宮町義太夫講習会(三昧線)	於銀座吉水	10月23日 資料部作業	於協会資料室	9月25日 義太夫節保存会総会
7月11日	平成十四年度法人事業報告提出	於大宮町コミニティセンター	9月18日 女流義太夫演奏会「道春館」他	於國立演芸場	10月25日 西塙子回り舞台公演	於内幸町ホール	9月25日 義太夫節保存会総会
7月17日	女流義太夫演奏会「加賀見山旧錦絵」	於國立演芸場	9月21日 大宮町義太夫講習会	於大宮町コミニティセンター	10月26日 芸能の公的支援に関する懇談会	於オペラシティ会議室	9月25日 義太夫節保存会総会
7月22・23日	乙女文楽中学公演出演	於鳥越神社白鳥会館	9月24日 第79回大日本素義会	於大宮町コミニティセンター	10月29日 第十回竹本越孝の会	於内幸町ホール	9月25日 義太夫節保存会総会

11月1日	番三十六回竹本朝重りさいたる	
11月1・2日	「じょぎ」公演	於東京ガスホール 二日間
11月6日	編集部会	於上野広小路亭
11月7日	公演部会	於協会資料室
11月19日	玉川大学三味線ワーカショップ	於東京新橋組合
11月19日	中嶋美香正会員審査	於國立演芸場第二研修室
11月19日	女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣 藏」	於國立演芸場
12月1・2日	「ぎだゆう座」二日間	於上野広小路亭
12月7日	真壁町白井座義太夫教室	於御徒町駅広小路口前
12月14日	真壁町白井座義太夫教室	放心亭（吉池七F）
12月22日	女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣 藏」	於白井農村交流センター
1月10日(土)	一時半開演	於白井農村交流センター
1月10日(土)	稲名川内の段	於國立演芸場
1月10日(土)	お江戸両国亭 入場料千円	
午後一時頃より会場前にて薬酒の振る 舞いをさせていただきます。		

初春特別公演

ぎだゆう座

堀川猿回しの段

稻名川内の段

一時半開演

お江戸両国亭 入場料千円

午後一時頃より会場前にて薬酒の振る
舞いをさせていただきます。国立演芸場
女流義太夫演奏会

年月日	曜
16年1月19日	月
2月19日	木
3月22日	月
4月21日	水
5月25日	火
6月21日	月
7月15日	木
8月30日	月
9月29日	水
10月26日	火
11月24日	水
12月16日	木
17年1月19日	水
2月22日	火
3月24日	木

開場 6時
開演 6時半

月により日程が違います。

ご注意下さい。

どうぞよろしく

お願ひ申し上げます。

これからの予定

寄付
大日本素義会様 三万円
会報
野澤吉平 参与
平成十五年十月十九日

野澤吉平 参与
平成十五年八月
毎月、演奏会に祝電を打つて

下さいました。
三ツ林弥太郎様
平成十五年九月十八日

初澤秀夫様 特別会員
平成十五年九月十八日

【編集後記】

○会報菲才泣くばかり…。（あ）

○“参加”する事に意義がありました。（S）

○あつという間に一年がすぎました。（T）

○今年はファイト一発!!（K）

○昨年は能を沢山見ましたが、今年は長唄を

沢山聞きに行きます。（S）

○留守がちですみませんでした。（M）

○今年は、体力増強に勤めます。（Y）

○いつも楽しい作業でした。（K）